

2019年7月4日

2019年夏休み（7月15日～8月31日）の旅行動向

**海外旅行人数は過去最高\***  
**総旅行人数は 7,734 万人(▲0.1%)と微減**

●国内旅行人数 7,435 万人(▲0.2%)

●海外旅行人数 299 万人(+3.5%)

\* 調査比較できる 2000 年以降

JTBは、「夏休み（7月15日～8月31日）に、1泊以上の旅行に出かける人」の旅行動向の見通しをまとめました。この調査は、1,030人から回答を得た旅行動向アンケート、経済指標、業界動向や航空会社の予約状況、JTBグループの販売状況などから推計したもので、1969年に調査を開始して以来、今年で51回目となります。調査結果は以下のとおりです。

(表1)2019年夏休みの旅行人数、旅行平均費用、旅行消費額の推計

	2019年夏休み			2018年夏休み	
	推計値	前年比	前年増減	実績推計	前年比
総旅行人数	7,734万人	▲0.1%	▲8万人	7,742万人	+0.1%
国内旅行人数	7,435万人	▲0.2%	▲18万人	7,453万人	▲0.1%
海外旅行人数	299万人	+3.5%	+10万人	289万人	+6.3%
国内旅行平均費用	36,200円	+4.0%	+1,400円	34,800円	+1.2%
海外旅行平均費用	227,700円	+6.2%	+13,200円	214,500円	▲0.7%
総旅行消費額	3兆3,723億円	+4.9%	+1,589億円	3兆2,134億円	+2.0%
国内旅行消費額	2兆6,915億円	+3.8%	+980億円	2兆5,935億円	+1.1%
海外旅行消費額	6,808億円	+9.8%	+609億円	6,199億円	+5.5%

- \* 旅行人数は、延べ人数数値。平均費用は一人1回あたりの費用
- \* 国内旅行人数は宿泊を伴う旅行者の人数（観光および帰省目的の旅行に限る）  
海外旅行人数は出国者数（業務目的の旅行を含む）
- \* 国内旅行平均費用は、交通費・宿泊費・土産代・食費等の旅行中の諸費用を含む
- \* 海外旅行平均費用は、燃油サーチャージ含む。旅行先での土産代等の現地支払費用は除く
- \* 対前年比は小数点第二位以下を四捨五入

## <社会経済環境と生活者の動き>

### 1. 旅行やレジャー消費をとりまく社会や経済の環境

夏休みの旅行に影響する足元の景気について、今夏のボーナスは大手企業で前年比2.52%減の97万1777円と2年ぶりに前年を下回りました（6月11日日本経済団体連合会発表）。5月の景気ウォッチャー調査（注1）によると、現状判断DIは前月差1.2ポイント低下、先行き判断DIは前月差2.8ポイント低下しています。しかしながら有効求人倍率は、前月比横ばいの1.63倍（季節調整値）と高止まりが続いています。為替相場は円高リスクを抱えた展開が続く見込みで、経済に及ぼす影響が懸念されています（図1、図2）。

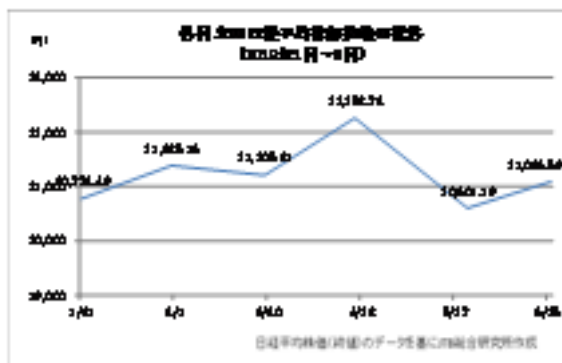
6月28日から2日間、日本で初めて20カ国地域首脳会議（G20大阪サミット）が開催されました。首脳宣言には、「自由、公平、無差別な貿易と投資環境を実現するよう努力する」と記されましたが、米中貿易摩擦の収束が見えてきたわけではなく、グローバル経済の先行きの不透明感はぬぐえません。

日常生活では、ガソリン代は、今のところほぼ前年並みではあるものの、日銀が実施している「生活意識に関するアンケート調査」（4月5日発表）によれば、現在の暮らし向きについては、「ゆとりがなくなってきた」は、昨年3月から連続して減少していましたが、今年3月の調査では上昇しています（図3、図4）。

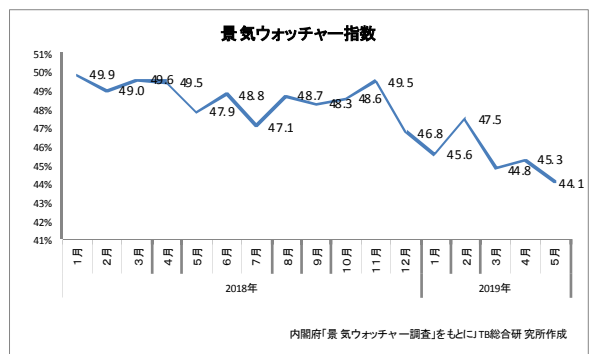
JTBが実施した旅行動向アンケートで「今後の旅行支出に対する意向」を聞いたところ、「支出を増やしたい」は10.8%と、前年から1.5ポイント減少し、「支出を減らしたい（40.7%）」は4.0ポイント増加しました。「同程度（48.5%）」は2.6ポイント減少し、この先の旅行支出に関して生活者は慎重になっている様子が見られます（表2）。

（注1） タクシー運転手、小売店の店長など景気に敏感な人への調査結果を指数（DI）化したもの

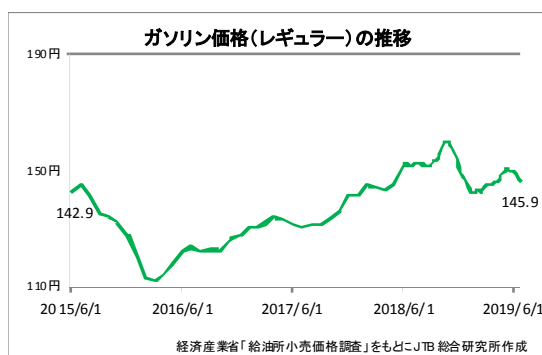
（図1）日経平均株価の推移



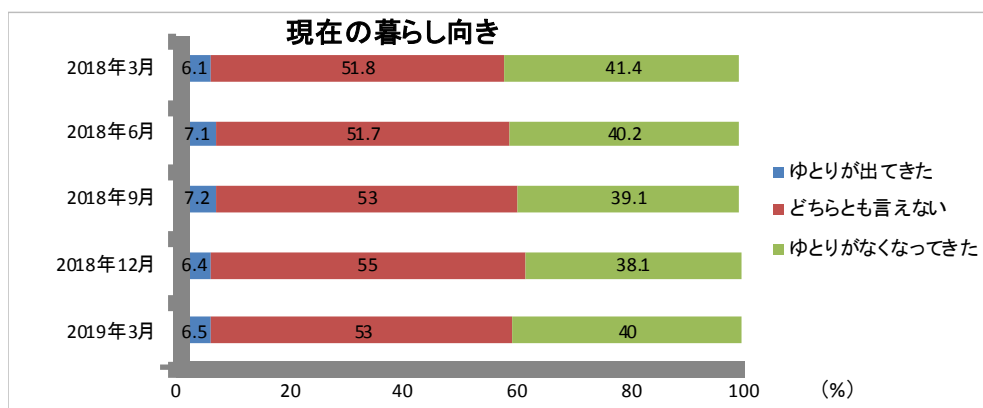
（図2）景気ウォッチャー指数の推移



（図3）ガソリン価格の推移



(図4)現在の暮らし向き(2018年3月～2018年12月)



出典: 日本銀行「生活意識に関するアンケート調査」(第76回)より抜粋しJTB総合研究所作成

(表2)今後の旅行支出に対する意向(調査月ベース)

単一回答( )は前回との差/単位% n=20,000 \*無回答があるため合計100%にはなりません。

	2019年6月
支出を増やしたい	10.8 (▲1.5)
支出は同程度	48.5 (▲2.6)
単価減らし回数増やす	9.5 (+0.2)
単価増やし回数減らす	7.2 (±0.0)
単価も回数も同程度	31.8 (▲2.8)
支出を減らしたい	40.7 (+4.0)

## 2. 令和 初の夏休み ～この夏の旅行を取り巻く環境と生活者の旅行意向～

今年は、7月に「海の日」を含む7月13日～15日、8月に「山の日」を含む8月10日～12日と、2回の3連休があります。8月13日～16日にお盆休みを入れることで9連休とすることも可能な日並びです。9月も9月14日～16日、9月21日～23日の2回の3連休があります。4月からは働き方改革関連法が施行され、年5日の年次有給休暇取得が義務化されたこともあり、連続休暇が取得しやすい環境は広がっています。この夏から秋にかけてのイベントとしては、香川県と岡山県の12の島と港で開催される現代美術の国際芸術祭「瀬戸内国際芸術祭2019」(夏会期:7月19日～8月25日)や、2020年を前に開催されるスポーツイベント、そして9月20日から11月にかけては、ラグビーワールドカップ2019™日本大会などがあります。

夏休み期間中に帰省を含めた旅行意向をアンケート対象者20,000人に聞いたところ、「行く(20.0%)」、「たぶん行く(18.0%)」と回答した人の合計は、38.0%となり、昨年より2.0ポイント減少しました。「たぶん行かない(26.8%)」「行かない(35.3%)」は62.1%で2.1ポイント増加しています(表3)。

今夏の生活や旅行については、収入に関しては、「昨年より収入が減った」と回答した人は21.1%で前年比2.3ポイント増加。「昨年より収入が増えた」と回答した人は19.6%と前年より減少しました。ボーナスに関しては、「今年の夏はボーナスが減りそうだ」と回答した人は7.2%で前年より増加しました。しかし、性年齢別にみると男性20～30代、女性20代は「収入が増えた」、「ボーナスが増えた」がそれぞれ「減った」を上回っており、若い世代の所得状況は比較的良好と考えられます。

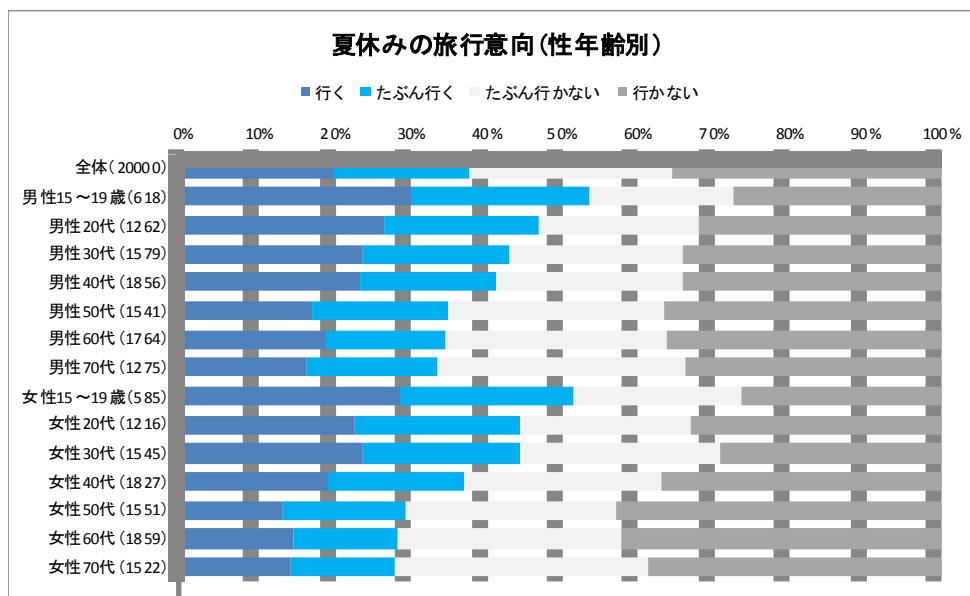
支出に関しては「先行きがわからないので大きな支出は控えておきたい」は 23.7%で前年比 3.5ポイント減少し、「物価上昇前に大きな買い物をしたい」は 8.0%でしたが前年より 2.4ポイント増加しています。

夏休みについては、「昨年の夏と休みの長さは変わらない」と回答した人が 35.1%と前年より 0.8ポイント減少し、「昨年の夏より長い休みが取れると思う」との回答は 13.1%と前年より 1.7%増加しています。

(表 3) 今年の夏休みの旅行意向

	2019年 n=20000	2018年 n=20000	前年増減
行く	38.0	40.1	▲2.1
行く	20.0	21.0	▲1.0
たぶん行く	18.0	19.1	▲1.1
行かない	62.1	60.0	+2.1
たぶん行かない	26.8	28.1	▲1.3
行かない	35.3	31.9	+3.4

<参考> 夏休みの旅行意向 (性年齢別)



(表 4-1) 今年の夏の生活や旅行について (複数回答)

	%	対前年比
昨年より収入が減った	21.1	+2.3
昨年より収入が増えた	19.6	▲1.1
今年の夏はボーナスが減りそう	7.2	1.6
今年の夏はボーナスが増えそう	7.8	▲3.4
先行きがわからないので大きな支出は控えておきたい	23.7	▲3.5
物価上昇の前に大きな買い物をしたい	8.0	2.4
昨年の夏と休みの長さは変わらない	35.1	▲0.8
昨年の夏より長い休みが取れると思う	13.1	1.7
昨年の夏より休みは短くなると思う	6.5	▲2.2
昨年の夏より遠方へ旅行したい	8.4	▲1.9
昨年の夏より近場の旅行に行きたい	6.5	0.1
今年の夏は、宿泊旅行より日帰り旅行を増やそうと思う	9.1	—
今年の夏は、日帰り旅行より宿泊旅行を増やそうと思う	9.7	—

(表 4-2) 今年の夏の生活や旅行について (性年齢別) (複数回答) \* 抜粋

	昨年より収入 が増えた	昨年より収入 が減った	今年の夏は ボーナスが増 えた、増えそう	今年の夏は ボーナスが 減った、減り そう	昨年の夏より 長い休みが取 れると思う	昨年の夏より 休みは短くな ると思う
全体 (20000)	14.4	22.5	5.3	6.8	8.1	6.6
男性15～19歳(618)	21.0	6.5	3.2	1.0	20.2	14.9
男性20代(1262)	30.5	17.4	13.2	8.2	10.7	12.8
男性30代(1579)	26.7	17.4	12.5	10.6	8.9	6.8
男性40代(1856)	19.9	19.3	8.8	11.3	10.2	6.8
男性50代(1541)	12.6	25.9	5.4	11.9	9.6	6.9
男性60代(1764)	8.3	30.8	1.0	5.6	7.9	4.4
男性70代(1275)	2.9	28.5	0.4	0.2	2.4	1.3
女性15～19歳(585)	19.0	10.8	1.2	1.0	18.6	19.5
女性20代(1216)	25.3	24.0	10.4	8.5	13.8	11.2
女性30代(1545)	19.4	23.5	8.2	9.8	9.6	7.3
女性40代(1827)	13.2	22.3	5.0	8.4	7.2	7.1
女性50代(1551)	8.0	25.0	2.5	7.3	5.0	5.4
女性60代(1859)	4.3	26.3	0.7	2.7	3.6	2.0
女性70代(1522)	2.0	19.3	0.4	0.7	1.0	1.2

## <2019 年夏休み旅行動向予測>

### 1. 海外旅行人数は、299 万人 (前年比+3.5%)、一人あたりの旅行平均費用は 227,700 円 (前年比+6.2%)。 出発日のピークは8月10日(土)

日本人の出国者数は 2018 年に 1,895 万人と過去最高を記録し、5 月の日本人出国者数 (推計値) は、前年比 3.9%増加の 143 万 8,000 人で1月から5月までの累計は 802 万 1,400 人と前年比 9.0% 増加で、好調に推移しています (日本政府観光局 (JNTO) 6月19日発表)。10連休だったゴールデンウィーク直後は反動もあり、夏休みの旅行予約はやや落ち着いた動きとなりましたが、JTB 総合研究所が実施した「海外観光旅行の現状 (2019)」調査 (2018年1月～2019年6月に海外観光旅行をした人が対象) では、2019年7月～8月に海外観光旅行を予定していると回答した人のうち、海外旅行コア層 (最低でも1年に1回以上海外旅行へ行く人) の割合をみると、67.9% で、全体平均を 25 ポイント以上上回っています。夏の期間に旅行へ出かける人には、海外観光旅行に積極的な人が多く見られるようです (図5)。

為替相場は、2018 年以降、ユーロや豪ドル、ウォンなどに対して円高傾向にあります (表 5、表 6、図 6)。燃油サーチャージは昨年と同額ですが、8 月以降は発券ベースで値上げの予定もあり、早目に海外旅行へ行きたいという人もいそうです。

座席供給数に関しては、ベトナム航空の関空ーダナン線、タイ・ライオン・エアの成田ーバンコク線、ANA の羽田ーウィーン線、ブリティッシュ・エアウェイズの関空ーロンドン線、JAL の成田ーシアトル線の就航など、アジアに限らず、広い方面で増加しています。

国内景気の先行きへの懸念はありますが、過去の旅行動向調査などの傾向から、海外旅行については国内旅行ほど景気の影響を受けないことが分かります。例えば、国際金融危機の翌年の 2009 年の夏休みは国内旅行は前年より 3.0%減少していますが海外旅行は 0.4%増加しています。

また、所得やボーナスが増え、長い休みが取れる若い世代の旅行意欲は高いようです (表 3)。上記のような条件から、海外旅行者数は増加すると予測します。

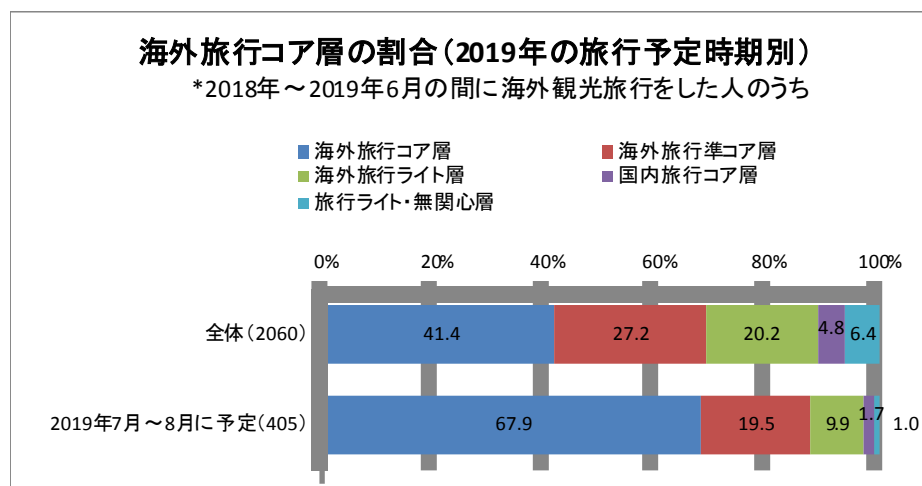
アンケートによると、「旅行の同行者」は、「家族連れ (62.3%) が最も多く、中でも「夫婦のみ

(26.4%)、「それ以外(母と娘など)(13.2%)」が増加しています(表7)。「一人当たりの旅行費用」は、「10万円～15万円未満」が23.6%と最多ですが、「40万円以上(17.0%)」は前年より4.4ポイント増加しています(表12)。「旅行日数」は、8泊以上が14.8ポイント増と大幅に増加しました。日並びもよいことから、遠距離の旅行先へ出かける人が増え、旅行日数や予定費用は増加すると考えられます。アンケートの一人あたりの旅行費用は平均すると、海外旅行は10.2%、国内旅行は5.4%増加しています。

出発日のピークは、航空会社の予約状況や、業界動向などから総合的に判断し、山の日付近の8月10日(土)と予測しますが、ハワイやグアム・サイパンなどの方面では、旅行代金がかかる8月下旬の出発も目立ちます。

JTBの海外旅行の予約状況を見ると、人気の旅行先は1位ハワイ、2位グアム・サイパン、3位韓国、4位台湾、5位シンガポールとなっています。予約伸び率を見ると、関空ーロンドン線が就航したイギリスや、グローバルデスティネーションキャンペーンを実施しているハワイが好調です。

(図5) 2019年7月～8月に旅行を予定している人の、海外旅行コア層の割合



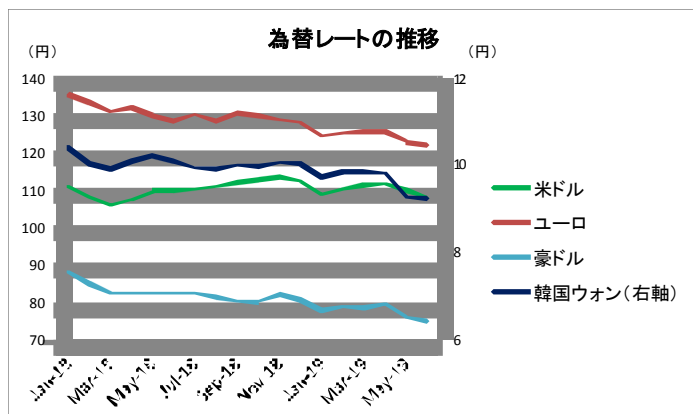
(表5) 各年6月末の日本円に対する各国の為替レート

(単位:円)

	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年	2014年	2013年	2012年
米ドル	108.79	111.54	113.00	103.91	123.96	102.36	99.59	80.31
ユーロ	123.99	129.41	129.47	115.89	136.99	139.81	130.03	100.24
英ポンド	140.57	148.59	149.79	142.41	197.03	176.63	154.30	127.12
100韓国ウォン	9.53	10.08	10.01	9.16	11.14	10.22	8.82	7.08
中国元	15.99	16.96	16.79	15.76	20.09	16.62	16.35	12.95

東京外国為替相場/T.T.Selling(三菱東京UFJ銀行調べ)

(図6) 2018年1月以降の為替レートの動き (単位: 円)



(表6) 8月発券の燃油サーチャージ額の推移 (日本航空の場合/日本発着/往復/単位: 円)

	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年	2014年	2013年	2012年
韓国	1,000	1,000	400	0	1,000	5,000	4,000	4,400
中国	3,500	3,500	1,000	0	5,000	14,000	11,000	9,000
香港	3,500	3,500	1,000	0	5,000	14,000	11,000	12,000
台湾	3,500	3,500	1,000	0	5,000	14,000	11,000	12,000
グアム・サイパン	4,000	4,000	2,000	0	6,000	16,000	13,000	14,000
タイ・シンガポール・マレーシア	6,500	6,500	3,000	0	9,000	26,000	21,000	23,000
ハワイ・インドネシア	8,500	8,500	4,000	0	12,000	32,000	27,000	30,000
米国・欧州・中東・オセアニア	14,000	14,000	7,000	0	21,000	50,000	42,000	47,000

出典: JAL プレスリリース